

木やブロンズといった異なる素材を組み合わせたり、薄板を貼り合わせたりするなど、従来の彫刻の伝統にとらわれない柔軟な造形スタイルで知られる本県出身の彫刻家・保田井智之。本展示では、当館のコレクションに新たに加わった作品を紹介します。

「a clod of earth Jul. 一ひとくれの土 七月一」は、張り合わされた板材による構成にブロンズの組み合わせという、保田井の特徴がよく表れた代表作です。また、組木によって流麗なフォルムが作り出された「torusの船」は“トーラス（円環面）”という概念と出会った保田井が新たに立体と平面の関係性を捉え直した近作です。

現代具象彫刻の新しい流れを感じさせる保田井の表現にぜひご注目ください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	保田井 智之	1956~	a clod of earth Jul. 一ひとくれの土 七月一	2008(平成20)	151.8×52.7×33.6	彫刻
2	保田井 智之	1956~	torusの船	2014(平成26)	56.1×180.6×44.8	彫刻
3	保田井 智之	1956~	torusの船	2015(平成27)	72.4×102.5	素描